

院長のひとりごと ふじいしげる

福岡新水巻病院が開院して1ヶ月半が経ちました。地域の患者さんの安心を達成すべく、職員全員がひとりひとり最大限の努力をしております。さらに救急隊員の皆様からもどんな患者さんでも福岡新水巻病院につれて行けば必ず助けられると信頼を得るべくさらなる研鑽を積みみたいと思います。

この文面は、「院長のひとりごと」と題しまして不定期になるとは思いますが、私の大変厄介な持病である「習慣性ブツブツ症」の気の向くままに多くを語りたいところですが手短に極い揃ってお話させていただきます。

最近一番嬉しかったことは冠動脈の左主幹部閉塞の患者さんが心臓血管外科渡辺副院長を中心とするチームによりバイパス手術が施行され見事救命されたことです。左主幹部閉塞はまだまだ救命率も低く大変難しい手術とされます。そのような困難な症例を開院して間もない病院で成功させるとは渡辺先生に拍手を送りたい。

もうひとつ嬉しいことがあります。それは医局の先生がみんな常識的な社会人で、働き者で、宴会好きなことです。「常識的な社会人」って当たり前と思われと思いますが、変な話ですが、医者はびっくりする程「非常識」な人が多い職種なんです。患者さんの痛みや苦痛や不安はなかなか理解するのが難しいのですが、そこに社会的常識が欠落すると最近あった東京の小児科医のような事件がおこります。福岡新水巻病院の医局の先生は全員が社会的常識人で院長としては大変ありがたいことです。

世の中では夜中まで働く人は必ずしも正当に評価されておらず救急医療の現場でも同様です。医療レベルが低いから夜中まで仕事をしないと患者さんが来てくれないのかと悪口を言うとしてもない人が昔はいました。それでも我々のグループでは患者さんのためになるならと、自分の家庭や私生活を犠牲にしても働こうといういわゆる「変わり者」です。そういう「変わり者」が頑張るとウチもやるかという模倣犯が出てきて、結局地域の医療水準が上がり地域住民のためになるという構図が生まれます。

これで今回のブツブツはおわりです。 第一章。

